

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●スプリンターズSではルガルがG I初制覇を果たす

9月29日(日)に行われたスプリンターズS(G I)は、前走・高松宮記念(G I)では1番人気で10着に敗れていたルガル(牡4歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が巻き返して優勝、G I初制覇を果たしました。鞍上の西村淳也騎手(栗東・フリー)にとってもG I初制覇。高松宮記念以来“ぶっつけ”の馬が勝利するのはレース史上初で、中26週(189日ぶり)でのJRA平地G I制覇は1984年のグレード制導入以降では6番目に長い間隔となります。

●横山和生騎手がJRA通算400勝を達成

9月28日(土)の4回中山8日・第6レースではハッピービバークが1着となり、同馬に騎乗した横山和生騎手(美浦・フリー)は、現役42人目となるJRA通算400勝(5813戦目)を達成しました。

●橋木太希騎手がJRA初勝利をあげる

9月29日(日)の3回中京9日・第6レースではシャープソーンが1着となり、同馬に騎乗した橋木太希騎手(栗東・西園正都厩舎)はJRA初勝利(80戦目)をあげました。これで本年デビューした新人騎手は全員が勝利をマークしたことになります。

●M. デムーロ騎手がJRA通算1300勝を達成

9月29日(日)の3回中京9日・第7レースではヨウシタンレイが1着となり、同馬に騎乗したミルコ・デムーロ騎手(栗東・フリー)は、史上30人目・現役14人目となるJRA通算1300勝(8194戦目)を達成しました。

●夏・秋の中京競馬リーディングジョッキーは西村淳也騎手

9月29日(日)をもって連続開催となった2・3回中京競馬が終了し、2回中京で12勝、3回中京で8勝、計20勝をあげた西村淳也騎手(栗東・フリー)が、開催リーディングジョッキーとなりました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ジャパンダートC(大井)は今年国内緒戦のフォーエバーヤング

ジャパンダートダービーから改称されたダート三冠の最終関門、ジャパンダートクラシック(Jpn I、3歳、10月2日、大井、2000^米)は、2番手から直線に入って間もなく先頭に立ったケンタッキーダービー3着馬フォーエバーヤング(坂井瑠星騎手、牡、父リアルスティール)が、3番人気のミッキーファイトに1馬身1/4差を付け、単勝1.7倍の支持に応えました。サンライズジバングが3着、2番人気のラムジェットは4着、逃げたカシマエスパーダは6着、ポッドロゴは9着、サトノエピックは13着でした。

●グランブリッジがレディスプレリユードで1年7ヶ月ぶりの勝利

レディスプレリユード(Jpn II、10月1日、大井、1800^米)は、5番手から差を詰めた1番人気のグランブリッジ(川田将雅騎手、牝5歳、父シニスターミニスター)が、先に抜け出した2番人気のアイコンテラーをゴール寸前でアタマ差捉えました。3番人気のアーテルアストレアは3着、逃げたヴィブラフォンは4着、ライオットガールは5着で、JRA所属馬が上位を独占しています。

●マリーンC(船橋)はテンカジョウが重賞初挑戦で初制覇

今年から3歳牝馬限定戦となったマリーンC(Jpn III、9月26日、船橋、1800^米)は、離れた5番手から追い上げた2番人気のテンカジョウ(国分優作騎手、父サンダースノー)が残り150^米で差し切り、5馬身差で圧勝。クラヴィコードが2着に入り、逃げた単勝1.6倍で断然人気のアンモシエラは前半の競り合いが響いたか4着、3番人気のアンデスビエントは最下位の6着に沈みました。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1カリフォルニアクラウンS～サブサナドルが優勝

昨年までのオーサムアゲインSから改名されたG 1カリフォルニアクラウンS(3歳上、ダート1800^米)が、現地9月28日にアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われ、M. スミス騎手が手綱を取ったサブサナドル(牡5歳、父フォーティファイ、R. マンデラ厩舎)がゴール前で3頭が横に並ぶ接戦を制して優勝しました。アタマ差の2着に昨年のブリークネスSを含むG 1・3勝のナショナルトレジャー。そこからハナ差遅れた3着にG 1サンタアニタHの勝ち馬ニューゲート。勝ったサブサナドルはアルゼンチンで2023年のラスアメリカスOSAF大賞(ダート1600^米)を含むG 1・3勝を挙げた後、アメリカに移籍。前走今年8月のG 3フィリップH. イゼリンS(ダート1700^米)で移籍後初の重賞制覇を果たしていました。

●G 1ジョーハーシューターフクラシック～ファーブリッジが差し切る

9月28日にアメリカ・ニューヨーク州のアケダクト競馬場で行われたG 1ジョーハーシューターフクラシック(3歳上、芝2400^米)は、J. ロザリオ騎手を背に5頭立ての4番手を追走したファーブリッジ(牡4歳、父イングリッシュチャンネル、C. クレマン厩舎)が直線で内を突いて抜け出すと、このレース3連覇を狙ったウォーライクゴッズに半馬身差をつけて優勝しました。勝ったファーブリッジはこれで昨年7月のベルモントダービーS(芝2000^米)、今年8月の前走ソードダンサーS(芝2400^米)に続くG 1・3勝目です。